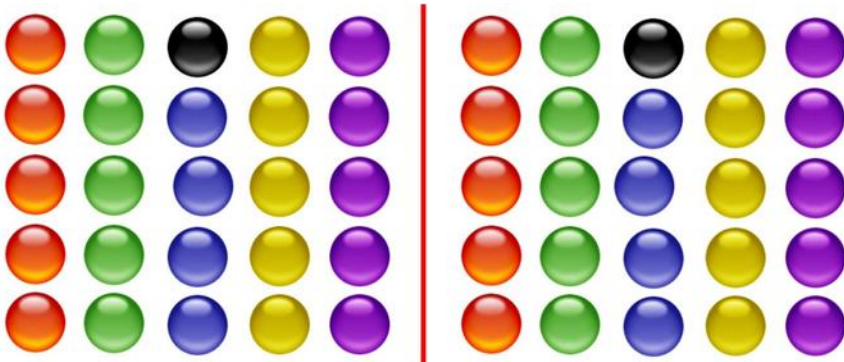


「ステレオグラム (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

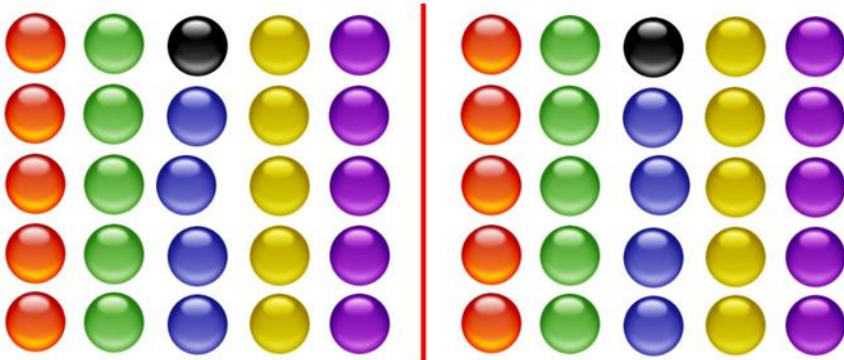
2枚の絵や写真で構成されるステレオグラムを、実際に立体的に見るには、コツの理解と、多少の訓練が必要である。基本的には「平行法」と「交差法」の2種類がある。まずは、最も単純な例で「訓練」してみよう。下の図は、左右2枚の画像で一組の考えてほしい。全く同じ図形の配列に見えるが、中央の青い球だけをほんの少しだけ、左右にずらして配置している。この「ズレ」が3次元的な視覚効果を生み出すポイントとなる。



(A ; 平行法用の図)

①平行法

まず左図の赤い線のあたりをぼんやりと見る。「画よりも奥を見る」という感じである。2つの画が4つになったら、黒い球が真ん中で重なって、3つの画になるように視線を調整する。すると突然、真ん中の青い球が、飛び出て見えてくる。



(B ; 交差法用の図)

②交差法

左図の赤い線の手前に両目の焦点を合わせる。(指をたてても良い) 寄り目気味にして、画像がブレるようにする。2つの画が4つになったら、黒い球が真ん中で重なって、3つの画になるように視線を調整する。すると突然、真ん中の青い球が、飛び出て見えてくる。

(カラー球の立体視画像 作図 ; C. Tanaka)

平行法と交差法では、画の描き方が異なる。逆に、この2種類の画は、自分が「平行法」で見ているのか「交差法」で見ているのかわからない場合の検査にも使える。こんな具合である。

・ Aの画 (平行法用) で真ん中の青い球が浮き出して見えた人は、「平行法の習得者」、真ん中の青い球が沈んで見えた人は、「交差法の習得者」ということになる。

・ Bの画 (交差法用) で真ん中の青い球が浮き出して見えた人は、「交差法の習得者」、真ん中の青い球が沈んで見えた人は、「平行法の習得者」ということになる。

筆者はどちらもできるが、平行法のほうが目が疲れにくいように思う。どうやってもうまくいかない場合は、以下の方法を試してみてください。

- ・ 「はやく立体的に見よう」と焦らずに、ボーっと見たほうが、うまくいくことが多い。
- ・ 眼鏡をしている人がうまく立体的に見えない場合、裸眼で見るとうまくいく場合もある。
- ・ PCやタブレット画面上ではうまくいなくても、印刷した画像だと簡単に見える場合もある。
- ・ 画を縮小したほうが、ずらして見る幅が小さくなるので、楽に重ねることができる。

文字通り、「奥が深そうな」ステレオグラム・・・この夏の研究課題の一つになりそうだ。